

RSウイルス感染症

症状

- ・RSウイルスのRSとは「Respiratory Syncytial (=呼吸器の合胞体)」の略です。
- ・生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもがRSウイルスに感染するとされています。
- ・潜伏期間は主に4～6日といわれています。
- ・咳や鼻水、鼻づまり、発熱など、かぜの症状からはじまり、だんだん咳がひどくなり、ぜいぜいと息苦しくなってきます。
- ・発熱も4～7日と長くなることもあります。
- ・初めて感染した場合は重くなりやすく、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)では、細気管支炎、肺炎、無呼吸といった重篤な呼吸器症状を引き起こし入院治療を必要とすることがあります。
- ・繰り返し罹患し、かかればかかるほど症状は軽くなるといわれています。

治療

- ・効果のあるお薬はなく、対症療法が中心となります。

家庭で注意すること

- ・呼吸が苦しそうなときは背中をやさしくたたき、痰を出しやすくしましょう。
- ・からだを起こすように抱っこしてあげてください。
- ・鼻づまりのときは、鼻吸い器などで吸い取ってみてください。
- ・お部屋は適度に加湿してください。
- ・水分やミルク、母乳をこまめに与え、おしっこの量や回数に注意してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・水分が取れない、機嫌悪く顔色も悪い、咳やぜいぜいが強く眠れないといった症状の悪化は入院治療が必要となることがあります。すみやかに医療機関を受診しましょう。